



は面接があったそうです。緊張していつもより吃音がひどくなったらどうしようかと不安なのです。

中学に入学する前もとても不安でした。他の小学校から来た子に変に思われるんじゃないか、新しい友達はつくれるのか不安でした。

母もひどく心配していました。中学校に出す書類全部に私が吃音症である事、理解をして欲しい事を書いていました。私も母も、吃音症が原因でいじわるをされないか不安だったのです。

でも中学に入学して、6年生の時から良く一緒に遊ぶとても明るい友人と同じクラスになれました。保育園からの付き合いの幼なじみもありました。少し勇気を出して、中学の自己紹介では、自分が「吃音症である」という事をクラスの人々に伝えようと思っていました。でも結果は、勇気が出ませんでした。クラスメイトに自分が吃音症である事がはずかしく、言えなかったのです。

私の姉はおしゃべりで、うるさくて、明るくて、そして優しい人です。普段はむかつく事ばかり言ってきて私をイライラさせますが、姉が教えてくれた事があります。高校に入学して、何日かたった時、学校の先生の紹介を体育館でやったそうです。そこに吃音症の先生が居た。と言っていました。姉は私が吃音があり、どんな症状かわかっているの、その先生のしゃべり方を見て「武蔵と一緒にだ、吃音症なんだな」と、普通に感じたそうです。でも姉の周りに居た生徒たちは、どもっている先生に対し、クスクス笑ったり、「何？バグ？」とか言っていた人も居たそうです。それに対して姉は悲しかったそうです。「もっとみんなに理解されてほしい。無知ってはずかしいね。」

吃音症は百人に一人いると言われていますが、家族や友達に居なければ、どんな障がいなのか理解してくれる人は少ないですね。まず吃音の認知度が低いのだと思います。私は四月の自己紹介で勇気を出せば良かったなど今は後悔しています。吃音症である私がみんなにわかる様に説明していたら、クラスの三十五人の中の一人でも吃音の事を調べてくれて理解してくれる人がいたら、私じゃない吃音症の人に出会ったら、その人に優しくしてくれるかもしれない。優しさは周って、生きやすくなるかも知れない。

私の来年の目標は自己紹介でクラスメイトに「吃音症だ」と伝える事です。吃音症とうまく付き合っていくのです。自分が暮らしやすくするために、堂々と言いたい。来年までに勇気がたまりますように。